

希望し、努力し、感謝して生きる

おきたま若者交流ミニシンポジウムinかわにしと和太鼓の夕べ

長崎瑞宝太鼓 チャリティコンサート

テーマは「自立」

急速な社会環境や産業形態の変化により、地域のコミュニケーションは希薄化し、無縁社会時代が問題視されています。ここでは、「自立」をテーマにしたミニシンポジウムと交流イベントを開催し、交流の受け入れ基盤の拡充を図ることを目的とします。

交流イベントのゲストとして招致する長崎瑞宝太鼓(長崎県)からは、知的障害をというハンディキャップを抱えながらも親や社会への依存から脱却し、自ら太鼓奏者のプロとして起業し、積極的に社会に対してチャレンジしている熱い自立の姿勢を学びます。

日時

2012年6月1日 金

開演 18:00 (開場 17:00)

会場

川西町フレンドリープラザ

山形県東置賜郡川西町大字上小松1037番地1

全席
自由

前売券

一般 2,000円・学生 1,000円(高校生以下)(当日券 各500円増)
ハンディキャップのある方は無料でご招待いたします。(別途申込必要)

■主催 おきたまネットワークサポートセンター(おきさぼ)

■共催 やまがた里の暮らし推進機構

■後援 川西町 川西町社会福祉協議会 山形県社会福祉協議会

お問い合わせ

おきたまネットワークサポートセンター(おきさぼ) 担当:原
山形県川西町吉田5886-1 ☎ 0238(44)2840 ✉ office@okisapo.net

やまがた里の暮らし推進機構 担当:山口
山形県川西町吉田4690 ☎ 0238(54)3006 ✉ info@satonokurashi.jp

瑞宝太鼓

瑞宝太鼓のプレーヤーは皆知的障がいというハンディがあります。平成13年、それまで勤めていた仕事を離れ夢にまでみていたプロの和太鼓奏者になりました。この9年間で約1,000公演・動員数約340,000人。これまで多くの皆様に育てていただいた感謝の気持ちと経験の成果を太鼓の響きに込めて、たくさんの方々へお届けできるようにと企画いたしました。



プロフィール

私たちは大好きな太鼓を打ちながら、自分の力を最大限に発揮していくと共に地域との交流を深め、誰もが住みやすく活気ある社会づくりを語りかけます。

海外演奏 スペインパラリンピック閉会式に出演
 ニューヨーク国連本部・ロサンゼルス公演
 シドニーパラリンピック・ブリスベンフェスタ出演
 スウェーデン・ブルネスINAS・FIDグローバル大会他演奏
 マレーシア「ムヒバセンター」開所祝賀演奏・友好訪問演奏

受賞 平成10年7月 北九州国際障害者芸術祭 最優秀賞
 平成14年10月 第一回東京国際和太鼓コンテスト入選
 平成15年10月 第二回東京国際和太鼓コンテスト入選
 平成18年12月 長崎県地域文化章
 平成19年12月 雲仙市特別賞
 平成20年7月 サントリー地域文化賞
 平成20年11月 長崎県民表彰特別賞受賞
 平成22年8月 第九回東京国際和太鼓コンテスト優秀賞
 平成22年12月 雲仙市特別賞

テレビ放送 平成13年10月 NBCテレビ「電撃黒潮隊」放送
 平成19年9月 NHKテレビ「ながさきヒート」放送
 平成21年4月 報道センターNBC「瑞宝太鼓 9年目の春」
 その他、ニュースや地域番組にて多数出演

新聞 平成13年 「朝日新聞」「長崎新聞」「島原新聞」プロデューサー記事掲載
 平成14年 「毎日新聞・言いたいコーナー」岩本団長夢を語る
 ◇ 「東京新聞」「西日本新聞」「長崎新聞」
 東京国際和太鼓コンテスト出場記事
 平成17年 「福祉新聞」障がい者の職業としての取り組み記事
 平成19年 「毎日新聞」「西日本新聞」少年院公演ツアー記事
 ◇ 「読売新聞・あんしん社会保障コーナー」障がい者の自立記事
 ◇ 「朝日新聞・社説」岩本団長愛する人と暮らす
 平成20年 「毎日新聞」「西日本新聞」福岡公演記事
 ◇ 「朝日新聞・窓 論説委員室から」福岡公演感想記事
 ◇ 「毎日新聞」「西日本新聞」「長崎新聞」「島原新聞」
 サントリー地域文化賞 記事
 平成22年 「朝日新聞」「西日本新聞」「長崎新聞」「読売新聞」「東京新聞」
 第9回東京国際和太鼓コンテスト「優秀賞」受賞記事
 その他、各県にて公演のお知らせ記事多数掲載

少年院・刑務所慰問演奏 合計53公演（平成21年12月現在）
 学校・PTA関連公演 合計112公演（平成21年12月現在）

ファンからのメッセージ

今まで非行を何度もして
 くじけそうになりました。
 けど皆さんの演奏をきいて、
 自分も負けてはいられない
 という気持ちに
 なりました。

誰でもがんばれば
 何でもできる、ということ
 皆さんの演奏をきいて
 教えてもらったような
 気がします。

激しい音と動きは
 迫力があり、
 気持ちは舞い上がって、
 目と耳は舞台に釘付けに
 になりました。

諦めていたら
 自分の負けだ！
 ということに
 気がきました。

骨まで頑張って
 やっているのが
 伝わってました。

自分は
 今まで社会の人達に
 迷惑ばかり掛けていた事が
 馬鹿らしく感じました。
 それに今まで何事にも一生懸命
 頑張ろうともしないで、
 本当に情けなくなりました。

「素晴らしい」
 これ以上の誉め言葉は
 僕には出ません。



※メッセージは少年院、刑務所慰問演奏会の折、いただいたものです。

売上げの一部を東日本大震災の義援金として被災地へお届けいたします。

● タイムスケジュール



● 申し込み

ポスター、チラシの貼ってあるチケット取扱所にてチケットをお求めください。